

企画展「武蔵武士と寺院」記念講演会・ シンポジウムのアンケート結果について

君 島 勝 秀

はじめに

埼玉県立嵐山史跡の博物館では、平成19年1月13日（土）に企画展記念講演会、翌14日（日）にシンポジウム「武蔵武士と寺院」を国立女性教育会館講堂において開催した。これらの事業（以下、講演会・シンポジウム）は、平成18年12月9日から平成19年3月4日まで開催された企画展「武蔵武士と寺院」の関連事業として行われた。

企画展では、正法寺、安楽寺をはじめとする比企地域にある寺院と中世の武蔵武士とのかかわりについて焦点を当てて、経塚出土の経筒、板碑、宝篋印塔、蔵骨器などの中世寺院関係の考古資料を中心に展示を行った。講演会・シンポジウムではこの企画展の内容を補強する意味合いも含めて、文献、考古両面からの最新の研究成果を踏まえた内容となった（詳細は「武蔵武士と寺院」シンポジウム実行委員会資料参照）。

当日は実行委員会を組織して運営された。講演会では、最初に中世関連の芸能として横瀬人形芝居保存会による説経節「親子対面矢取りの場～小栗判官実道記より」の上演が行われた。説経節は中世以来の浄土信仰の流行から説経が芸能化する中で生まれてきたものである。上演は舞台のスクリーンに映した人形芝居の映像に合わせて、三味線と語りを進めた。次いで都立大学名誉教授、峰岸純夫氏より講演「大蔵合戦と武蔵武士」が行われた。翌日のシンポジウムでは、5名の中世研究者による発表がそれぞれ行われた後、午後から発表者を含めた10名の研究者がパネラーとなって、質疑応答や活発な意見交流が行われた。

今回参加者からアンケートの御協力をいただき、講演会・シンポジウムの内容や今後の事業に関する感想・意見・要望等をいただいた。今後参考とすべき貴重な内容である。以下、アンケートの集計結果について報告する。

アンケートの集計結果について

講演会・シンポジウムの参加者は、1日目（講演会）が410人、2日目（シンポジウム）が343人であった。このうち、回収されたアンケート数は138枚である。

1. どちらに参加しましたか。

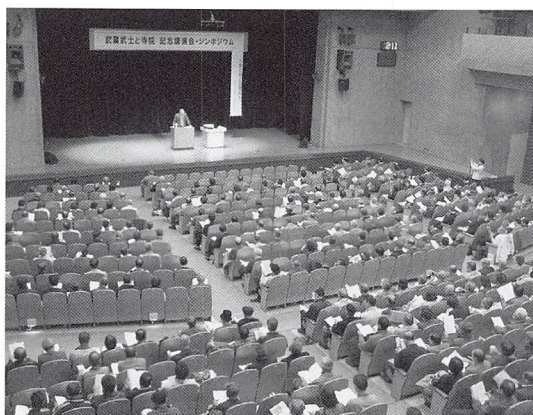
講演会のみ（29人） シンポジウムのみ（34人） 両日参加（69人） 無回答（6人）

2. 性別を教えてください。

男性（110人） 女性（27人） 無回答（1人）

3. 年代を教えてください。

19歳以下（0人） 20代（2人） 30代（10人） 40代（11人） 50代（13人） 60代（62人）
70代（35人） 80代（3人） 無回答（2人）



講演会会場風景

設問1～3については、講演会とシンポジウムの連日参加者が多く、参加者の強い学習意識を示している。性別・年齢層から見ると退職後の余暇を利用した男性の高齢者が圧倒的に多い。

4. お住まいを教えてください。

嵐山町（15人） 比企郡（42人） 入間郡（35人）
大里郡（5人） 秩父郡（0人） 児玉郡（0人）
北埼玉郡（0人） 北足立・埼玉郡（28人）

その他県内（6人） 県外（6人） 無回答（1人）

アンケート回答者の住所では嵐山町を含めた比企地

域が57人で最も多く、次の入間郡内では川越市、所沢市、毛呂山町、坂戸市が多く、いずれも鎌倉街道や武蔵武士関連の史跡がある地域である。北足立・埼玉郡ではさいたま市、鴻巣市が多い。県外では東京都、群馬県、神奈川県の回答を得た。

5. 今回の講演会・シンポジウムをどのような方法でお知りになりましたか？（複数回答）

ポスター（13人） リーフレット（38人） 彩の国だより（42人） 役場の広報誌（16人）

新聞記事（16人） 雑誌等（1人） インターネット・博物館ホームページ（14人）

テレビ・ラジオ（0人） 知人に聞いて（15人） 学校で聞いて（0人）

博物館に来て知った（29人） その他（2人）

今回の広報では企画展ポスター・リーフレットを県内の博物館、図書館及び、近隣の大学、研究機関、博物館へ配布したほか、彩の国だより（県の広報誌）、比企地域の各自治体の広報誌に案内が掲載された。新聞・テレビ・ラジオでは朝日新聞社、埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM埼玉で広報され、雑誌では歴史読本に掲載された。アンケート結果では、彩の国だより、リーフレットに次いで、当館に来て初めて講演会・シンポジウムについて知った方が多いのが注目される。

6. 講演会・シンポジウムの感想

良くわかった。（36人） わかった。（45人） まあまあわかった。（33人）

良くわからなかった。（2人） 無回答（20人）

内容の理解度については「良くわかった」「わかった」「まあまあわかった」までで全体の8割になるが、一方で無回答も一定数存在している。

7. 企画展「武蔵武士と寺院」は御覧になりましたか？

もう見た。（57人） 後で見に行きたい。（78人） 見るつもりはない。（2人） 無回答（1人）

講演会・シンポジウムの会場となった国立女性教育会館は嵐山史跡の博物館と隣接している。このアンケート結果からは、参加者の中にはあらかじめ企画展の観覧とセットで講演会・シンポジウムに参加した方も多かったと考えられる。また、シンポジウムに参加してから改めて企画展も観覧したいと考えた方も多かったことを示している。講演会・シンポジウム会場と企画展会場との地の利を生かした双方向の人の流れが作出され、企画展観覧者数は2日間で325人を数えた。

8. 今後、どのような事業を行ってほしいですか。

（記述式） 全62件

(1) 武蔵武士や秩父平氏に関するもの 12件

比企一族について。武蔵七党について。平家物語と武蔵武士について。比企丘陵の武士団の変遷。氏姓から見た武蔵武士団の全国展開について。秩父平氏についてなど。

(2) 戦国時代に関するもの 12件

後北条氏の城と合戦。後北条氏と上杉関東管領の城。戦国期の比企地域の城跡。埼玉の城跡についての最新情報。古河公方について。戦国大名、国人等の領国支配についてなど。

(3) 上記以外の中世に関するもの 2件

中世の文化・習慣・生活・民家について。被支配者側から見た中世の世相（歴史）について。

(4) 中世以外の時代に関するもの 7件

古代のことをもっと知りたい。比企地域の古墳について。横穴群の検証。県内の万葉集について。高麗人と埼玉について。古代の鑄造遺跡について。江戸時代の武士の農村支配について。

(5) 神社・寺院に関するもの 4件

廃寺の見学説明会。鎌形八幡神社について。寺院伝承について（住職から聞く）など。

(6) 鎌倉古道や街道について 3件

鎌倉古道（生産と流通など含めた内容）について。街道と城館跡との関係についてなど。

(7) 対象地域についての要望 14件

比企地域の歴史や文化をこれからも取り上げてほしい。（5件）

比企地域以外（入間地域、川越、さいたまなど）の地域をもっと取り上げてほしい。（4件）

埼玉・武蔵国の歴史。全国から見た武蔵国について、その他。（5件）

(8) その他 10件

史跡保護に役立つ事業。史跡探訪。古典文学と「武蔵国」の資料化。連日講座の開設。庶民の暮らしに関するもの。考古中心でなく文献にもスポットを当てた企画。古文書に接する企画。埼玉県の歴史セミナーの開催。県外史跡のバスツアー。鎌倉見学会。

時代別・種類別に分類し、主な内容を併記した。(1)から(3)までは中世に関する事業の要望であり、全体の4割を超える。従来から中世の時代を中心に活動してきた当館の役割から当然の結果であるが、中でも(2)の戦国時代の城跡に関するものは以前人気が高いといえる。戦国時代や城跡を取り上げた企画展や講演会などの事業は、ここ数年来多くの博物館がテーマとして取り上げられてきた。当館でも平成16年度事業において、「埼玉の戦国時代 城」と題して企画展、シンポジウムを行い、好評を得た。今後もこの分野の事業への需要度は高いといえる。

(1)の武蔵武士などの中世武士に焦点を当てた事業の要望は、(2)と同等に多かった。今回の講演会・シンポジウムで武蔵武士を取り上げたことが参加者には新鮮な受け止めをもたらした結果と考えられる。一方でまた、「戦国時代」や「城郭」と同様に「武蔵武士」「中世武士」というジャンルには従来から高い関心が持たれているのも事実である。今回、鎌倉街道や武蔵武士関連の史跡がある地域からの参加者が多いのは、地元や郷土史との強いつながりを見出そうとする意識が読み取れる。

(7)については、比企地域以外の地域を取り上げてほしいとする意見が一定数あり、入間郡からの参加者が多いことから、今後検討する必要がある。

この他、考古学の分野だけでなく、文献や伝承、古典文学など他分野との組み合わせを取り上げてほしいとする意見があり、今後新しい切り口の企画を考えていく上で参考にしたい。



シンポジウム風景

9. その他、御意見・御感想・御要望がありましたら御記入下さい。(記述式) 全40件

(1) 講演会について 4件

峰岸先生の講演を多くお願いします。

質問は事前申込にすべき。

スクリーンがあった方が理解しやすい。

学会の発表ではないので成果の発表というより発見の経緯を交えての話が良く伝わります。

(2) 説経節について 4件

説経節はたいへん面白かった。ビデオを使った上演は有効でした。(同様の意見含めて3件)

ビデオ映写中にフラッシュ撮影しないよう注意してほしい。

(3) シンポジウムについて 20件

発表者1人あたりの時間が少ない。テーマをしぼっても良いのでじっくり拝聴したい。(発表者の数を減らして発表時間を長くしてほしい、など同様の意見含む) 6件

マイクが悪くて良く聞き取れない。3件

(発表者の) 話のペースが早過ぎてわかりにくかった。2件

今回のシンポジウムは専門的で難解。素人でも理解しやすい解説を。3件

専門家の方が多く素人には難解だったが興味を持てた。

司会は全員に分かりやすくよく聞こえるように進行してほしい。

パネリストに地元の郷土史家も参加させたらどうか。

「戦国の城」同様にシンポジウムの成果を本にしてほしい。

武蔵武士についてはこれからは本格的に研究される分野なので今後の発展に期待します。

県外の人にも分かりやすく告知してください。参加者にはがき等で案内してほしい。

(4) 当日の資料について 3件

資料がとても立派で敬服しました。

資料の有料は説明不足です。

資料代をとることについてはこの時代では当然のことと思われる。

(5) スタッフの対応等について 2件

駐車場や会場への案内・誘導が良き届いていてとても良かった。

ボランティアの対応が良かった。長い間の資料館の活動の財産だと思います。

(6) 要望その他 7件

地元に関する歴史講演会はこれからも実施してほしい。(同様の意見含めて3件)

毎年このような事業をつなげてほしい。特に西部地域の歴史と貴館の重要性を考えて、埼玉県でも文化行政の中で特に力を入れてほしいと思う。(同様の意見含めて2件)

嵐山の博物館の存続を切に望む。

説経節や講演会、資料、スタッフの対応などに関しては、概ね好評だった一方で、シンポジウムの内容に関する改善要望が目立った。今後の事業の参考にしていきたい。

おわりに

今回はアンケートの集計結果についてのみ報告した。最後に、講演会・シンポジウム開催当日に御参加いただいた峰岸純夫先生はじめ中世研究者の皆様、実行委員会の関係各位、連日御協力いただいた埼玉城郭探訪会はじめ多くのボランティアの皆様に御礼申し上げます。